



記念樹

発行者
医療法人 大分記念病院

大分市羽屋9組の5
TEL 097 - 543 - 5005



ホームページアドレス <http://oitamh.jp>

2019年7月15日 Vol.127

戦争と平和

最近の国際情勢を見ていますと日常的に戦争と平和について語られています。国家間の争いが収まらず、世界戦争にも繋がりがねない言動も目立ちます。大変なことです。

皆さん、戦争と平和という言葉聞いた時何を思い出されますか。私の世代ではまず思い浮かぶのは、ロシアの文豪レフ・トルストイの叙事詩的長編小説「戦争と平和」です。私たち若者がいかに生きるべきかのバイブルとなったのが「戦争と平和」でした。

当時の若者たちは六巻に及ぶ長編小説を一夏かけて読み通すのが習わしでした。「戦争と平和」や「アンナ・カレーニナ」を読んでいるものは相手にして貰えない時代で、私たちは「人生いかに生きるか」の指標にしていました。

「戦争と平和」は1805年ナポレオンのロシア侵攻という歴史的事件を背景に、ナポレオン戦争で戦った「数百万の関わり合いから数百万分の一を選び取る」といわれた難事業で個人の運命を国民的テーマからそれらさず、また一人の運命をも国民的課題によって無視することなく物語を進めたといわれ

ています。

その中で語られる幾つかの言葉をあげてみると

人はいかに生きべきか。命は時であり、人生である。

「いかに生きるか」を実行した主人公の一人であるアンドレイは「いかに生きるか」は、それがどのような状況であれ、選び取れることを伝えています。

私の命は時である。時は微分すると今になり、積分すると人生になるから。

そしてこの人生は何のためにあるのか？それは幸せになるため。人生はそれを使って幸せになるためにある。

小説の最高傑作と掲げられる「戦争と平和」には究極の「幸せになる方法」が書いてあるといわれます。

また、求める幸せに相当するものが名譽だろうと財産だろうと、人生は選べること、世界の認識の仕方は選べることに気づかない。

素晴らしいことばの数々、日野原重明先生のミッションと全く同じです。若者は歴史上の人物の生き方から人生を学んだものでした。

さらに重要なことは、トルストイは「戦争と平和」について、これは単なる長編小説ではなく今風に言えば「人はなぜ平和を求めて戦争をするのか」に答えるシュミレーターであると語ったといわれます。心に響く言葉です。

ナポレオンのロシア侵攻から二百年を経た今、世界の指導者たちが「戦争と平和」を読んだかどうか。歴史に学べていないことが軽々しい戦争と平和という言葉ではありませんか。



ベンゾジアゼピン受容体作動薬(睡眠薬)に注意

不眠は大変な悩みであり、また体調不良、事故、欠勤等の原因となり日常生活に支障をきたします。これに対し、ベンゾジアゼピン受容体作動薬(商品名デパス、ハルシオン等)が催眠鎮静薬として長年処方されてきました。他に不安を軽減する作用や筋弛緩作用もあり、肩こりや頭痛にも重宝されています。

ところが長期服用による依存、耐性及び離脱症状の出現、高齢者では認知機能低下、転倒の危険性等が問題視されるようになりました。

2017年3月に医薬品医療機器総合機構から医薬品適正使用のお願いとして、医療機関向けにベンゾジアゼピン受容体作動薬について以下のような情報が出されました。

ベンゾジアゼピン受容体作動薬を催眠鎮静薬及び抗不安薬として使用する場合、

①漫然とした継続投与による長期使用を避けて下さい。

②用量を遵守し、類似薬の重複処方はないことを確認してください、
③投与中止時は、漸減、隔日投与等にて慎重に減薬・中止を行ってください、

ベンゾジアゼピン受容体作動薬には、承認用量の範囲内でも長期間服用するうちに身体依存が形成されることで、減量や中止時に様々な離脱症状があらわれる特徴があります。主な離脱症状は、不眠、不安、焦燥感、頭痛、嘔気、嘔吐、せん妄、振戦、痙攣発作などです。

その後、2018年4月から保険診療上も制約がかかるようになりました。不安や不眠に対しベンゾジアゼピン系の薬剤を12か月以上連続して同一の用法・用量で処方されている場合には、処方料及び処方箋料が減額されました。(病院の収入を減らす)

ただし、「不安・不眠に係わる適切な研修を修了した医師」または「精神科薬物療法に係る適切な研修を修了した医師」が行った処方、「直近1年以内に精神科の医師からの助言を得て行っている」処方以外は除外されます。

そして多剤処方にも制限がかかりました。「3種類以上の抗不安薬、3種類以上の睡眠薬、3種類以上の抗うつ薬、3種類以上の抗精神病薬」または「4種類以上の抗不安薬および睡眠薬の投薬を行った場合」は処方料、処方箋料、さらに薬剤料ともに引き下げとなりました。多剤併用により依存形成の危険性が高まるからです。病院や薬局の収入を減らすことで上記の適正使用を押し進めようという厚生労働省の考えと思われる。

現在、ベンゾジアゼピン受容体作動薬を1年以上継続して内服中の方は、減量、中止すべきですが、困難な場合もありますので担当医とよく相談して下さい。またベンゾジアゼピン系以外の他の薬に変更する場合は、

不眠に悩む方は、ご自分の睡眠パターン(寝床でテレビを見ない、就寝前ド(寝床で)テレビを見ない、就寝前のタバコやカフェイン(茶、コーヒー)を止める、睡眠薬代わりの寝酒の禁止、起床後の日光浴、朝食摂取を心掛けるなど規則正しい食生活、昼間の運動、30分以内の昼寝)がありま

もあります。

この機会に、ご自分の生活も見直してみたいかがでしょうか。皆様

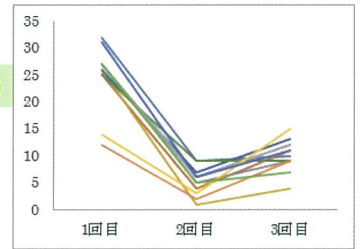
が質の良い睡眠をとることを願っています。





司会の依田科長代理

大分記念病院 5月定例研修会(医療安全に関する研修)

「チームSTEPPS
～チームとして何ができるのか～」

安全な医療を実践するためにはどうしたらいいのかを考えると、その一つとしてチームでの連携を高めることが挙げられます。

「人は誰でも間違えるもの」事故原因を考えると、よく聞かれる言葉です。チームを構成する人それぞれが、チームとは何か、チームの3つの特性①特定の目的や達成すべき目標を共有していること②課題を遂行するうえで、相互に協力する必要性が強いこと③チーム内のメンバーの役割が明確であることについて理解し、チーム活動を機能させるために必要なチーム内でのコミュニケーション、情報共有や協力、連携を進める努力をすることが重要です。

今回はチームSTEPPS(医療のパフォーマンスと患者安全を高めるためにチームで取り組む戦力と方法)について、国立保健福祉医療科学院の穂田健一郎先生の講義を参考にチームに求められる実践能力とは何かを考えました。

多職種が集まり1グループ6名ずつ、協力して出来るだけ長く紙の鎖を作る演習を行いました。

1回目は会話をしながら両手を使い2分間で鎖を作ります。2回目は利き手を使わず片手のみでの作業、3回目は会話も

禁止し、片手のみで作業しました。それぞれ作業条件が変わり、難しくなっていくなか、結果は、2回目よりも3回目の方が、鎖の数が多くできました。(グラフ参照)

グループの振り返りでは「声掛けしながら作業が行えた」「コミュニケーションが上手く取れ、役割分担ができた」「リーダーシップを取ってくれる人がいて、役割が明確になった」「相手を観察し、アイコンタクトできた」「作業に慣れてきた」と振り返りを行うなかでチーム内での課題、課題解決に向けた工夫がチームごとにてできていました。

今回の研修目的であった“チームの実践力を高めるために何が必要なのか”を考えることができたと思います。

病院内ではひとつの業務に対して多職種が関わることが多く、多職種間での連携が非常に重要になってきます。職種を問わず知識を深め経験を積みトレーニングを重ねながらチーム連携を実践していかなければなりません。

これからも研修を通じて多職種間のチームワークを高め、患者さんが安心できる安全な医療を提供していかなければならないと考えています。

(文責 医療安全対策委員会 依田 真実)



1回目 会話をしながら両手で



2回目 片手のみで作業



3回目 会話禁止!片手のみで作業



ふれあい看護体験

1990年、看護の心を広く伝えるため、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日である5月12日が「看護の日」に制定されました。毎年、全国各地で多彩なイベントが開催されますが、当院でも5月24日に「ふれあい看護体験」が行われました。

今年は大分舞鶴高等学校3年生3名と大分西高等学校3年生1名が参加されました。

午前中は病院内の見学を行い、各部門の担当者から病院の機能や業務内容等について説明を受けました。

午後からは病棟で担当看護師と共にバイタルサインのチェックを行い、手浴、足浴、食事介助等実際に患者さんにふれる看護を体験しました。

体験終了後の感想をひとつ紹介します。

「手を洗わせていただいた患者さんの嬉しそうな表情を見て、看護の仕事のやりがいというもの少し分かったような気がしました。患者さんを助けたい、役に立ちたいと



いう気持ちが強くなり、看護師になりたいという思いを一層強くする時間になりました。実際に患者さんと接する中で、看護職の魅力をいくつも探すことができました。病院には色々な職種があり、チームで医療を提供していることが分かり視野を広げることができました」

今回の体験を通して感じたこと、学んだことが今後の進路選択等、色々な形で役立つことになれば幸いです。

作りま専科

とうもろこしと
えびのかき揚げ

<材料> 2人分

とうもろこし(ゆでたもの) …… 1/2本
(正味100g)
えび(無頭/殻つき) …… 100g
(殻をむいた状態で85g)
玉葱 …… 70g
三つ葉 …… 1/2わ
衣(水 …… 大さじ3
小麦粉 …… 大さじ3
小麦粉、揚げ油、塩 …… 適量

作り方

- ① とうもろこしは包丁で実だけを削るようにして外す。玉葱は1cm角に切り、三つ葉は1cmの長さに切る。えびは殻をむいて背ワタを取り、1cmの長さに切る。
- ② ①をボウルに入れて混ぜ、小麦粉を全体にまぶす。
- ③ 別のボウルに衣の材料をいれて溶き、②のボウルへ加えてよく混ぜる。
- ④ フライパンに揚げ油を3cmの深さほど入れ、180℃に温める。③を箸とスプーンで一口大にまとめ入れ、きつね色になるまで揚げる。器にもり、塩少々をふる。



編集後記

暑中お見舞い申し上げます。気温が上昇し、この時期流行るのが「夏かぜ」です。暑さのために良質な眠りが得られない、また冷房や冷たい飲み物で体を冷やしすぎるなどにより体力を落とすこと、つまり夏バテが感染の誘因となるようです。暑い毎日が続くと思いますが体調管理に気をつけて元気に過ごされてください。

さて今回の巻頭言では、ロシアの文豪トルストイの長編小説「戦争と平和」を取り上げています。ロシアの人々とナポレオンとの戦争を描いた長編小説でありながら、自分探しを続ける若者たちの成長の物語でもあります。この小説の登場人物の数は何と559人！莫大な数の人間たちが生々しく描写され、複雑に入り組んだストーリーが展開されます。その中でも大きな役割を担う2人の男と1人の女。彼らが戦争に巻き込まれながらもそれぞれに成長を遂げ、生と死、そして愛の意味を知る壮大な物語となっています。この小説を通して、豊かな人生とは何なのか、そして生きる喜びとは何なのか、わたしたちに残したトルストイのメッセージをひも解いてみるのもおもしろいのではないでしょうか。(図書室 河野)

新入職員歓迎玉入れ大会



6月15日(土)19時から南大分体育館で毎年恒例の新入職員歓迎会が開催されました。今年も例年通り玉入れ大会が行われました。今年は職員が約210名、子供たちが約75名と大勢の参加者が集まり大変活気のある大会となりました。

玉入れ大会は今年で9回目となり、6チーム総当たりで合計15試合行いました。各チームとも慣れた様子で作戦を立てながら試合に臨んでおり、60個近く玉を入れているチームもありました。

前半戦と後半戦の間に、子供たちによるエキシビジョンマッチを行いました。男の子チームと女の子チームに分かれて試合を行い、女の子チームが見事勝利しました。子供たちが楽しそうに玉を投げ入れる姿に会場も大いに盛り上がりました。

激戦の結果、松室先生率いる「竹田クリニック・事務課・図書室・医療事務課」の合同チームが見事優勝に輝きました。

結果発表の後、新入職員の自己紹介がありました。皆さん元気に自己紹介しており、最後まで楽しむことができました。また、今大会も負傷者を出すことなく無事に大会を終えることができました。

参加された皆さん、お疲れ様でした。例年通りとても有意義な時間を過ごすことができました。これからも職員同士協力し合って、様々なことに取り組んでいきましょう。



お盆診療の 8月13日(火) 14日(水) 15日(木)は通常どおり診療いたします。

お知らせ お盆休みはございません。 診療予約専用電話 097-545-4890

がん患者さんやそのご家族、介護援助者の方々の交流会です。
一般の方も自由にご参加ください。

リレー・フォー・ライフ大分サロンのご案内

毎月第2日曜日 午前10:00~12:00 当院の1階多目的ホールで開催しています。

主催 リレー・フォー・ライフ・ジャパン大分 会費は不要です。

医療法人 大分記念病院

基本理念

1. 私達は法人各施設・各部門が協力して、患者中心のチーム医療と利用者中心のチームケアを実践することにより患者及び利用者の満足度と幸福に貢献します。
2. 私達は常に診療レベルの向上を図ると共に地域住民の皆様に安全で良質な医療とケアを提供します。
3. 私達は地域の医療、福祉機関との緊密な連携を保ちながら一般急性期医療および地域包括ケアを実践します。

基本方針

1. 専門的医療レベルと医のアートを兼ね備えた全職員による全人的医療を患者の皆様へ提供します。
2. 患者及び利用者の皆様の立場に立って、信頼と安全の確保に全力を尽くします。
3. 患者及び利用者の皆様の満足度を高めるべく、心のかもった医療と介護サービスに努めます。

